



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1109		
科目名	文学 1		
担当教員	山崎 真紀子		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	時間外		
講義室		単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養と市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観、動機を動員することができる。 DP2-A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕地球的視点で物事を多面的に捉え、日本の精神文化を理解し異文化との交流の重要性を認識することができる。 DP4-I〔表現力・分析力〕文章表現を扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析を円滑に粉うことができる。 DP6-K〔表現力・対話力、ライティングコミュニケーション、オーラルコミュニケーション〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 A1 文化的自己意識、文化的多様性への理解（10%） A2 異文化適応、言語的コミュニケーション（10%） D1 文化的素養、知識の獲得、市民参加のためのコミュニケーション、市民的行動と省察と参加（40%） I1 内容理解、文理構造の分析、解釈、読者の声（15%） I2 表現、コミュニケーション（5%） K1 ライティング・コミュニケーション、目的及び文脈の理解、構成、内容の展開（10%） K2 オーラル・コミュニケーション、内容の構造化、言葉選び、話しの運び（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	2進行情期～3発展期		
科目概要・キーワード	授業概要：本授業は、明治期の日本文学について、具体的なテキストの読解を通して考察していきます。文学は、政治・経済・文化の諸ジャンルとの交錯の中で構築されてきました。ここでは文学作品だけでなく、法制度や経済についての言説、演劇や美術、広告のコピーなど様々な表現を取り上げ、多角的な視点で明治の文学を読む力を身につけることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、または各授業を補完・代替するためのオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 キーワード：言語的コミュニケーション・コミュニティと文化の多様性・内容理解・解釈・言葉選び・内容の構造化		

授業の趣旨	■副題 文化的素養や市民的教養を修得し大学生活を送るうえで必要な言語的コミュニケーション、分析力、表現力、書く力を身につける。 ■授業の目的 日本の精神文化を理解し、多様な価値を受容する能力を養うのに必要な分析力、探求力、表現力、対話力を修得し、他者理解能力など市民生活や大学生活を送るうえで必要な能力を身につける。 ■授業のポイント 日本近現代文学の作品を読むことを通して、総合的な日本語力と読解力、文脈に応じて言語を理解する内容理解力、分析力を習得する。文学作品を通して想像力を養い、文化的多様性を理解する。	
総合到達目標	■市民的素養と市民的教養を身につけるために、日本文学の基礎知識と、作品の読解方法を理解する。 ・日本近現代文学の作品を読み、文脈を的確に読解することができる。(2～13回) ・作品の文体や表現方法、背景を具体的に説明することができる。(2～13回) ■日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢を身につけるために、日本文化・異文化の理解を深め、物事を多角的に捉える態度を習得する。 ・文学作品から、時代・環境・年齢・性別など自分と異なる立場の人間の感情や問題を読み取り、多様な視点で物事を考察することができる。(2～13回) ・文学作品の読解を通して、日本の精神文化を理解し、説明することができる。(2～13回) ■理解力・分析力・表現力・コミュニケーション能力を高めるために、作品を正確に読解・分析し、自らの考えを的確に表現する技能を身につける。 ・文脈に応じて言語の持つ意味を正確に理解し、的確な言葉を用いて文章を記述することができる。(5,9,14 回) ・自分の考えを形成し、他者に正確に伝える力を身につけて、コミュニケーションを円滑にはかることができる。(2～15回)	
成績評価方法	■毎回の授業時課題（50％）：適用ルーブリック A1・A2・I2・K2 （評価の観点）授業をよく視聴し、理解できているかどうかを見ます。文学作品の読解力と時代背景、文化、習作への理解、語彙力、言葉を正確に読む力を問います。日本文化と自国の文化の理解度がなされているかを評価とします。 （フィードバックの方法）提出後の授業時の冒頭にフィードバックします。 ■テスト（50％）：適用ルーブリック D1・I1・K1 （評価の観点）文学作品の内容理解、文理解の分析、解釈、文脈の理解などが正確になされているかを問います。答案の表現が適切かどうかを評価します。 （フィードバックの方法）実施回の翌週の授業時に講評します。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	教科書は必ず持参し、受講の前後共に繰り返し読んでおくが必要です。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ イントロダクション、作家案内 ②授業概要 樋口一葉という作家がどのような作家であったのかを説明を受ける。(D1) 成績評価の方法について確認する。(A1、A2) ③予習(120分) 指定された教科書から関心のある小説を1作品読む。 ④復習(120分) 予習で読んだ作品の内容を、講義で学んだ方法で解釈し、ノートに書いておく。
	2	①授業テーマ 明治期の文学、樋口一葉『十三夜』をよむ。 ②授業概要 明治20年代末に発表された、文語体で書かれた樋口一葉の『十三夜』の冒頭の20行の説明を受ける。(K2) 作中に描かれている明治期の時代状況、特に婚姻制度、家族制度、家屋構造の説明を受ける。(A1、A2、D1)、授業内容の確認を問う課題ペーパーに取り組む。(K1) ③予習(120分) 『十三夜』全編を読んでくる。

	④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。
3	①授業テーマ 明治期の文学、樋口一葉『十三夜』をよむ。 ②授業概要 前回の課題ペーパーの講評を受ける。樋口一葉の『十三夜』の（上）の説明を受ける。（K2） 作中に描かれている明治期の時代状況、文化、風俗、住む地域による違いなど作品を理解するための解説を受ける。（A1、A2、D1） （I1、I2、）授業内容の確認を問う課題ペーパーに取り組む。（K1） ③予習(120分) 『十三夜』全編を2度読む。登場人物の状況を説明する文をノートに書く。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着をはかる。
4	①授業テーマ 明治期の文学、樋口一葉『十三夜』をよむ。 ②授業概要 前回の課題ペーパーの講評を受ける。樋口一葉の『十三夜』の（上）の説明を受ける。（K2） 樋口一葉の『十三夜』（下）の説明を受ける。作中に描かれている明治期の時代状況、特に身分制度の廃止、学問をつけることによる出世など文脈にそった解釈の説明を受ける。（A1、A2、D1） 登場人物の状況を説明する文をノートに書く。（I1、I2、K1、K2） 授業内容の確認を問う課題ペーパーに取り組む。（K1） ③予習(120分) 『十三夜』全編を朗読し、会話文、地の文の境目にチェックを入れておく。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着をはかる。
5	①授業テーマ 明治期の文学、樋口一葉『十三夜』をよむ。 ②授業概要 樋口一葉の『十三夜』（下）を読む。前回の課題ペーパーの講評を受ける。樋口一葉の『十三夜』の（上）の説明を受ける。（K2） 当時の時代状況、文化、風俗、教員が朗読した部分の言葉の意味、文脈にそった解釈の説明を受ける。（A1、A2、D1）。前回ノートにまとめたものを深めて、文章の構成や誤字脱字に留意して課題ペーパーを仕上げて提出する。次回の中間テストの説明を受ける。 ③予習(120分) 『わかれ道』全編をもう一度読み、あらすじを書く。 ④復習（120分） 説明を受けた内容をノートにまとめる。
6	①授業テーマ 中間テスト ②授業概要 『十三夜』の学習内容を問うテストを受ける。（A1、A2、D1） ③予習（120分） 『たけくらべ』二度読む。ノートを読み直す。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。 森鷗外『高瀬舟』を読む。
7	①授業テーマ 中間テストの講評。森鷗外『高瀬舟』を読む（第1回目）。 ②授業概要 前週行った中間テストの講評を受ける。終了後、森鷗外『高瀬舟』を読む。当時の時代状況、文化、風俗、教育制度、言葉の意味、文脈にそった解釈の説明を受ける。教員が朗読するのをテキストを追って、よく聞き取る。（A1、A2、D1） ③予習（120分） 森鷗外『高瀬舟』を読んでわからない言葉を辞書で調べる。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。

8	①授業テーマ 森鷗外『高瀬舟』を読む（第2回目）。 ②授業概要 森鷗外『高瀬舟』を読む。当時の刑罰などの法制度を学び、文脈にそった解釈の説明を受ける。教員が朗読するのをテキストを追って、よく聞き取る。（D1、I1）授業内容の確認を問う課題ペーパーに取り組む。（K1） ③予習（120分） 『高瀬舟』をリズムと切れ目に注意して全編の朗読する。わからない言葉の意味を調べておく。 ④復習（120分） 講義で学んだ語彙をノートにまとめ、難しい言葉の知識の定着を図る。
9	①授業テーマ 森鷗外『高瀬舟』を読む（第3回目）。 ②授業概要 前回の課題ペーパーの講評を受ける。森鷗外『高瀬舟』を読み、描かれている登場人物の移動に注目し、そこに込められている意味や解釈の説明を受ける。教員が朗読するのをテキストを追って、よく聞き取る。（D1、I1）内容把握を問う課題ペーパーを提出する。（k1） ③予習（120分） 『高瀬舟』全編のあらすじを書き、全編の内容把握する。 ④復習（120分） 学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。
10	①授業テーマ 谷崎潤一郎『刺青』を読む。 ②授業概要 明治末（1910年）に発表された谷崎潤一郎『刺青』の冒頭文を詳しく説明する。全作を読み、内容をノートにまとめ、読みどころを町目、それを口頭発表する。（D1、I1）授業内容の確認を問う課題ペーパーに取り組み、提出する。（K1） ③予習（120分） 谷崎潤一郎『刺青』をよく読み、全編の内容を把握する。 ④復習（120分） 学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。
11	①授業テーマ 前回のリアクションペーパーの講評をする。谷崎潤一郎『刺青』2003年芥川賞受賞作『蛇とピアス』を読む ②授業概要 前回のリアクションペーパーの講評。1910年『刺青』と2003年芥川賞受賞作『蛇とピアス』との相違を「時代」というキーワードのもとで考察する。（D1、I1）その考察を課題ペーパーにて提出。（K1） ③予習（120分） 金原ひとみ『蛇とピアス』をよく読む。 ④復習（120分） 学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。
12	①授業テーマ 川端康成『ほくろの手紙』を読む（1回目）。 ②授業概要 日本で最初のノーベル文学賞受賞者の作家・川端康成の短編（1940年発表）の『ほくろの話』を読む。世界文学として日本文学をとらえる視点を養う。（D1、I1）（K1） ③予習（120分） 『ほくろの手紙』を3回ほど繰り返し読む。 ④復習（120分） 学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。
13	①授業テーマ 川端康成『ほくろの手紙』を読む（2回目）。 ②授業概要 本作の解説を受けてから、「日本的なるものとは何か」をテーマにリアクションペーパーを仕上げる。次回の期末テストの説明を受ける（K1） ③予習（120分） 『ほくろの手紙』全編を朗読する。 ④復習（120分） 学んだ語彙を復習し、難しい言葉の知識の定着を図る。

	14 ①授業テーマ 期末テスト ②授業概要 森鷗外『高瀬舟』、谷崎潤一郎『刺青』、川端康成『ほくろの手紙』を当時の社会制度や法制度、明治大正昭和初期の表現力、日本文学を世界文学として捉えるなど、文学作品を読む方法を理解できたかの確認テストを行う。（D1、I1、K1） ③予習（120分） 森鷗外『高瀬舟』、谷崎潤一郎『刺青』、川端康成『ほくろの手紙』全編を熟読し、ノートを読み直し、これまでの課題ペーパーにかかれていた内容を理解する ④復習（120分） テストでできなかったところをテキストやノートで確認し理解を深めておく。
	15 ①授業テーマ 期末テストの講評を受ける。 ②授業概要 これまで読んできた作品を振り返り総復習として、テストの講評を受け、明治期の文章の背景にある言葉の重み、明治政府の政策としての身体管理や、文化、習俗、祭事、法律、教育制度などが理解できたか、明治末の身体感覚や身体をめぐる表現の確認と現代のそれらとの比較を通して鳥瞰的に文学作品を読み取る力が養われたか、昭和初期の川端康成作品を通じて日本とは何かを掘り下げて考察できたかをを確認する（A1、A2、D1、I1、K1）。 ③予習（120分） 文学が社会や文化の中でどのような役割を果たしていたのか、考察してノートに記す。授業で読んだ作品、授業で紹介した作品の中で、最も好きな作品を何回も読み、何度も朗読する ④復習（120分） 授業で読んだ作品、授業で紹介した作品の中で、最も好きな作品の「面白さや読みどころ」を家族や友人に話し、その作品について「語れる」ようになっているかを確認する。
関連科目	文学2（RMGT/SSCS 1110）
教科書	『須賀敦子を選んだ日本の名作』河出文庫、2020年12月（ISBN978-4-309-41786-8）1400円＋税 他、授業時の配布プリント
参考書・参考URL	授業内でプリント配布。および必要に応じてお伝えします。
連絡先・オフィスアワー	開講時お知らせします。
研究比率	

